

平成30年度第2回北海道企業局工業用水道事業経営懇談会 議事録

日時 平成31年3月11日(月) 13:30～15:04
場所 北海道庁別館庁舎 10階企業局会議室
出席者 村上委員、荒川委員、河野委員、谷口委員、山崎委員(敬称略)
(事務局) 根布谷局長、松田課長、山下課長、西澤主幹、高橋主幹、寺崎主査、泉野主査、山岸主査、西井主査、早坂専門主任、佐藤主事、黒川主事

- 議題**
- 1 道営工業用水道の経営状況について**
 - ・「北海道工業用水道事業経営健全化計画」の進捗状況について(資料1)
 - ・「北海道企業局経営戦略」の策定について(資料2)
 - ・各工水(室蘭・苫小牧・石狩)における契約水量の動向について(資料3)
 - 2 需要開拓の取組について**
 - ・平成30年度「需要開拓の取組状況」について(資料4)
 - ・平成31年度「需要開拓促進年間行動計画(素案)」について(資料5)
 - 3 改修事業等について**
 - ・「室蘭地区工業用水道第三期改修事業」について(資料6)
 - ・「室蘭地区工業用水道第四期改修事業」について(資料7)
 - ・「苫小牧地区工業用水道第二期改修事業」について(資料8)
 - ・「北海道胆振東部地震」について(資料9)
 - 4 その他(事務局からの情報提供)**
 - ・「道議会決算特別委員会等」での議論について
 - ・消費税率の引上げに伴う北海道営工業用水道料金の改定について
 - ・「北海道企業局工業用水道事業経営懇談会」の取組状況について

議事

1 道営工業用水道の経営状況について

- 事務局から資料説明(西井主査、高橋主幹、西澤主幹)・・・資料1, 資料2, 資料3
- 委員からの主な意見

- ・石狩工水は契約率27%のままでは経営が厳しく、これからの需要見込みの中で収支改善の検討を進める一方で、今すぐということではないが、どこかの時点で撤退も含めて考えていく方向での試算もした方がよい。
- ・石狩工水をやめる場合、受水企業の代替用水をどうするかという課題があるので、企業局でも一般会計からの借入をしてでも運営を続けていると考えている。現在27%の契約率が今後64%に達する見通しがあるのであれば、長い目で経営を考えてもよい。
- ・企業は信頼度が何より大切で、給水単価は高いかもしれないが、道の工業用水が安心して信頼して使えるということは、とても高いアドバンテージになっていると思う。
- ・工水は安定供給が大事であり、胆振東部地震においても、一部断水はあったが非常用電源設備により大半は供給を続けられたという信頼感をアピールしていくべき。地震があったことで、火力発電所に給水を行う工水の大事さを改めてわかってもらった。

2 需要開拓の取組について

- 事務局から資料説明(高橋主幹)・・・資料4, 資料5
- 委員からの主な意見

- ・石狩湾新港地域の遊休地所有企業や建築確認申請企業などに対する営業活動や、平成31年度に新たに作成する予定の工水カードのほか、紙バッグ、ボールペンなどのグッズ、SNSを活用したPR活動など、需要開拓は引き続き積極的に進めるべき。

3 改修事業等について

- 事務局から資料説明(泉野主査、寺崎主査)・・・資料6, 資料7, 資料8, 資料9
- 委員からの主な意見

- ・欠損が生じているため、将来の設備更新投資には今後の余剰資金を充てていくこととなるが、投資金額は相応の金額となる。
- ・苫小牧第二期改修事業における更新区間は布設後40年経過しており、投資はやむを得ない。

4 その他(事務局からの情報提供)

- 事務局から情報提供(松田課長、西澤主幹)

以上